

# 人獣共通感染症？！口蹄疫

## ——宮崎の口蹄疫を顧みて——

### 背景

日本では10年ぶりに、2010年4月宮崎県に口蹄疫が発生した。あっという間に県全体に広がり、近隣の県まで広がる勢いを見せていた。しかし、宮崎県の皆さんの努力が功を奏し、県南の都城では1件の発生に留まり、終息を迎えるに至った。この時の人の動き、行政の動き、国の動きを外部から見て、偶蹄類の病気である口蹄疫は、ある意味人獣共通感染症と思えるようになった。

### 口蹄疫の被害

口蹄疫はその名のとおりに、偶蹄類の足と口に水泡ができ、採食困難、歩行困難などを引き起こし、衰弱する病気である。若齢牛では死亡率が高いが、成牛ではそれほど死亡率は高くないとなっている。勿論、偶蹄類動物の病気であって、人間には感染しない病気である。では何故それほどまでに、その防疫に力を入れて行わなければいけない病気であろうか？

### 人の病気としての口蹄疫

この口蹄疫を模擬して人の病気として考えると、その重要性が見えてくる。口蹄疫はまず人の口に感染し、水泡を形成する。水泡が形成された（畜産農家）人は、採食時に痛みを伴うために採食困難（経営困難、もしくは廃業）となる。採食が上手くできないために、高齢者や若齢者では死亡するかもしれない。これは畜産農家の直接的収入に悪影響を与え、次第に収入を減少させ、ついには収入が無くなる自体になる（採食不能）。感染力が強いため、近隣の畜産農家にも感染する。その後、次第に畜産関連業界全体にも飛び火をし、人工授精師、獣医師、農協職員に感染を及ぼす。さらには、畜産農家が所属する地域自治体や学校、商店街にもその感染が広がる。

一方口だけでなく足に形成された水泡は、人の動きを制限し、なかなか出て歩けない状況を作り出す。人の動きが制限されているので、その影響は近隣の商店街、他の産業界にも悪影響を与える。口に感染することによる収入の減少による直接的被害と、足に感染することによる人の動きの制限から生ずる地域の経済活動を減退させ、引いては県全体の経済活動を制限する形となる。

このように人間の経済活動という側面から口蹄疫を考えると、口蹄疫はまさしく人の口と足に感染する人獣共通感染症といえる病気である。

### 他産業への影響を新聞記事よりみる

#### 宮崎日々新聞の記事より 再生口蹄疫

<http://www.the-miyanichi.co.jp/special/kouteieki/index.php?paging=40&id=780>

#### 5月19日付け記事 家畜の殺処分

県は14日、川南町の5農場で新たに口蹄疫の感染疑いがある牛を確認したと発表した。飼育している計109頭はすべて殺処分される。感染・感染疑いは91例となり、殺処分対象の家畜は8万366頭（牛6713頭、豚7万3653頭）となった。

県口蹄疫防疫対策本部（本部長、東国原知事）によると、農場はいずれも肉用牛繁殖経営。1

3日に農場主や共済獣医師からの通報を受け、宮崎家畜保健衛生所の獣医師が症状を確認。検体を動物衛生研究所海外病研究施設（東京）に送り14日、遺伝子検査で陽性反応が出た。殺処分された家畜は4万1848頭となり、殺処分対象の過半数となった。

13日に制限区域が新たに設定されたことに伴い、国道10号の新富町三納代の自主消毒ポイントを24時間消毒に格上げ。合わせて国道10号高鍋町持田（東児湯消防署跡地）のポイントは自主消毒に切り替え、時間も午前5時～午後9時に短縮する。

### 5月22日付け記事 行動の制限

都城市教委は市内の小中学校54校に行事延期などを要請、月内に予定されていた修学旅行（21校）、遠足（22校）、集団宿泊学習（8校）が延期となった。緊急の中止や延期によって発生するキャンセル料は市で負担する。スポーツ少年団や部活動の市外での試合、不特定多数の保護者や住民らが集まる学校、PTA行事も当然の間は延期。また市は学校での防疫用として、踏み込み消毒槽に使う炭酸ソーダや消石灰を配布した。

### 7月13日付け記事 行事の中止 他産業への影響

口蹄疫の非常事態宣言（5月18日）で停滞した人の流れは、県内の交通機関を直撃している。

飛行機や貸し切りバスはキャンセルが相次ぎ、ガソリンスタンド（GS）の売り上げも減少。書き入れ時となる夏休みを前に、関係者は一日も早い回復を願う。

県外からの客足が遠のいたことで大きな打撃を受けているのが空の便。スカイネットアジア航空（SNA）の宮崎発着便は、6月末までに約1600席がキャンセルされた。全日空（ANA）でも、発生から6月末までに約1万席の予約が消えたという。

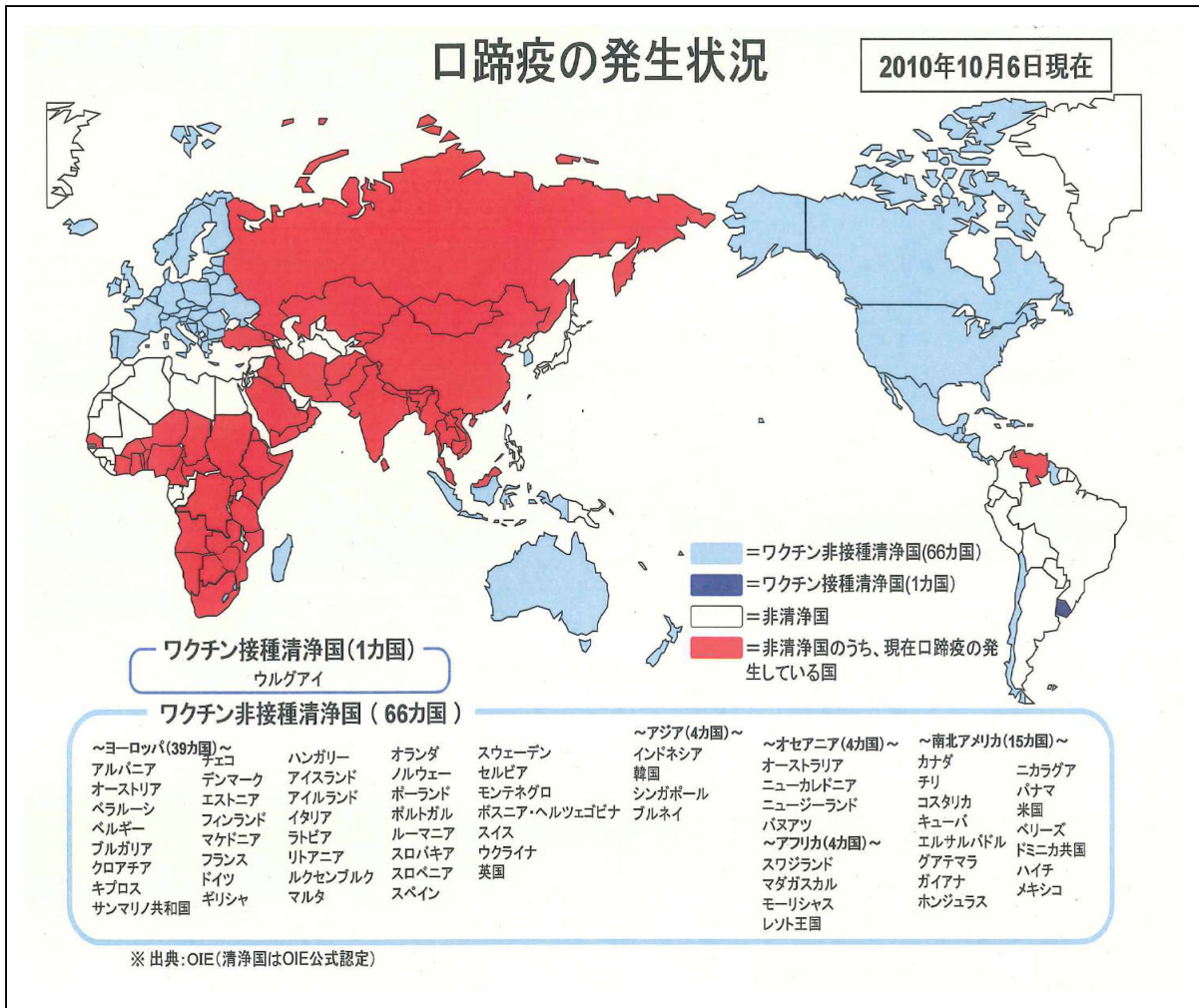
日本航空（JAL）は、本県関係主要路線の6月の搭乗者数は93～95%（前年同月比）と低い下げ幅にとどまっているが、7月の東京発宮崎行きの団体予約は50%台（同）となる見込み。繁忙期の落ち込みに、「非常に厳しい。すべてが口蹄疫の影響かは分からないが、宮崎への旅行を延期しているのではないかと懸念する。

### **口蹄疫 清浄国と非清浄国**

口蹄疫は、国際的に見ると口蹄疫清浄国と非清浄国に分類される。さらに、清浄国は口蹄疫ワクチンを使用している国としていない国に分類される。この3種類の国の分類が重要である。これらは、国際獣疫事務局（OIE）により分類されている。

清浄国は、非清浄国からの畜産品に輸入制限をかけることができる。これは感染の危険性を排除するためである。すると日本が清浄国であれば、畜産物の貿易は口蹄疫清浄国同士で行うことが可能となる。極限られた国（現在66カ国）同士の貿易となる。一般的には、非清浄国の多くは、その対策にお金を使うことができずに、汚染国であり続ける。しかもその国の畜産物は安い価格で取引される傾向にある。この安い価格の畜産物の輸入を制限できるかどうか、口蹄疫清浄国であるかどうかの境目になる。すなわち清浄国であり続けることが、日本国内の畜産農家の経済的援助（国内保護）をしている形になる。今後色々な2国間の貿易協定（FTA, EPA）などが発効されると、関税は年々低下をせざるを得ない。その時に日本の畜産農家を守る非関税障壁となるのが、「口蹄疫清浄国である」事である。

口蹄疫が発症すると、地域の人に多大な経済的被害を及ぼすが、一方外国での発生は日本の国内の畜産を守る防護壁にも成り得る。



○ OIE (国際獣疫事務局) 発表より

自由貿易協定 (FTA) : Free Trade Agreement

物品の関税及びその他の制限的通商規則やサービス貿易の障壁等の撤廃を内容とする GATT 第24条及びGATS (サービス貿易に関する一般協定) 第5条にて定義される協定。

経済連携協定 (EPA) : Economic Partnership Agreement

FTA の要素を含みつつ、締約国間で経済取引の円滑化、経済制度の調和、協力の促進等市場制度や経済活動の一体化のための取組も含む対象分野の幅広い協定。

地域貿易協定 (RTA) : FTA と関税同盟の双方を含む概念。WTO 協定上は、双方とも関税及びその他の通商規則の撤廃とサービス貿易の障壁の除去を内容とする。また関税同盟は参加国間の共通通商政策を前提として、対外的には共通関税を設定することが FTA と異なる。関税同盟の方が FTA より参加国内の統合度は高い。

色々な貿易協定が議論されているが、日本の畜産農家を守るためには、「口蹄疫清浄国」であり続けなければならない。